

岡村考二

Koji Okamura



感性を伝えるためには、
自分自身を妥協なく磨くことが必要

大阪国際音楽コンクールは、大阪から全世界に向けて音楽文化を発信するべく、若い才能を見出す目的で設立された。2003年以來その審査員を務めている岡村考二氏は、2005年の同コンクールで「最優秀指導者賞」を受賞。門下生がコンクールで素晴らしい演奏をしたことによりその指導者に授与されるものだ。受賞の喜びとともに、「これからも多くのことを学び、磨きをかけなければと自分自身に発破をかけています」と語る。「誠心誠意」をモットーとする岡村氏のレッスンには、数多くの生徒が集まる。そんな多忙な生活の一方で、演奏活動も精力的にこなす。そのエネルギーの源泉は、人と音楽への、厳しくも温かいヒューマンな愛情だ。

良い音を直に聴くのが体得への近道

——大勢の生徒さんを指導されていますが、どんなことに一番気を配っていらっしゃいますか。

岡村 音楽を表現するにあたって、大変重要な要素は音色です。ですから私はレッスンをする時、自分の音を生徒さんに聞いて聴かせます。良い音を直に聴いてもらうのが、体得への一番の近道でしょう。私自身がそのようにして学んできたのです。ホールで演奏している音と、すぐそばで聴く生の音は、ずいぶん違うわけですから、まずはそれを実感してもらいます。その時にできるだけ良い音を出せるように、私自身も音域から基礎トレーニングをしっかりと精進しておかないといけません。空いている時間を切り詰めて練習するわけですが、そのほうがかえって、集中力がついて良いのかもしれません。

——レッスンでは、やはり基礎練習を重視しておられますか。

岡村 はい、どんな生徒さんでも、基礎がしっかり出来ていないと伸びません。基本的には「ソノリテ」やロングトーンを使った音作りですね。あとはその生徒さんに合った教材を使います。見ていると、辛い思いをして練習したことのほうが、よく身に付いているようです。

「どうしたら上手くなるのですか」という質問を受けることがあるのですが、答えは「練習一筋」。これしかないですよ。安易な道では上手くはなりません。いつも初心を忘れず基本をしっかり、特にロングトーンが大事です。

——音作りをするにあたっては、いろいろな演奏を聴くなどして理想のイメージを作るのが良いのでしょうか。

岡村 そうですね。演奏家の音楽を聴いてこういうふうになりたいとイメージしたり、練習する時に、例えばランパルやニコレになり切ってしまうようなことも、意外と良いのかもしれません。気持ちの問題はすごく大きいと思います。それまで出来なかったことがスッと出来るようになったりもしますから。

厳しさと同時に優しさも必要

——大阪国際コンクールでは「最優秀指導者賞」を受賞されましたが、指導者に必要なことはどんなことだと思いますか。

岡村 芸術に限らずどんな世界でも同じですが、厳しさは必要だと思います。それを乗り越えて初めて、良いものが生まれるのです。しか

しそればかりではなく、人間的な優しい心というものも、伝えたいと
思います。音楽を厳しい目で教えるだけでは、何か大切なものが欠け
てしまうような気がするのです。私自身もこれまで習ってきた先生方
や今までに出会った多くの方から、人生において大変良い影響を受け
ました。表現者のパフォーマンスには、その人の心が現れると思いま
す。そして、優しい心とは、人間性の最も大切な部分を映したもので
はないでしょうか。

生徒さんには、厳しい目、優しい心、それらが生み出す人間性を、
レッスンの中で養ってほしいと願っています。感性というのは、伝える
のが難しいものです。実際に演奏しながら音楽を伝える過程で、教
える側と教わる側の感じ方がうまく一体化すれば、本当に良いものが
育っていくのでしょうか。

——そのために先生ご自身は、「常に自分を磨き、新しいものへ目を向
ける気持ち」を大切にしていられるようですね。

岡村 私は、新しいことやわからないことを放っておくことができな
い性分です。どうしてもそれに時間を費やしてしまうのです。時間
も労力もかかりますし、避けて通るのは簡単なのですが、何か壁にぶ
つかった時に、いろいろな試行錯誤を積み重ねているうちに、いつの
間にかけ抜け出せるということがあるのです。解決してしまえば大した
ことでもなかったとしても、そうした努力は、音楽だけではなく人間
形成においても、大きなプラスになっているのではないのでしょうか。

各地で好評の東京バロックアンサンブル

——演奏活動では、東京バロックアンサンブルの代表を務めていらっ
しゃいますね。

岡村 はい。仲間であり友人であるメンバー同士で結成しました。ず
いぶん長い付き合いになります。お互いに個性が違うので、それが
かえってうまく組み合せて、音楽作りに活かされていると思います。

——本当にいろいろなところで演奏していますね。

岡村 はい。三井住友海上文化財団が地方自治体と共同主催する、「地
域住民のためのコンサート」という公演に出演しています。大都市で
は毎日のようにどこかでコンサートが開かれています。地方では、
音楽が好きなのになかなか聴く機会がなかったり、良いホールがある
のに公演がないというようなことが、ずいぶん見受けられます。この
コンサートは、自治体の方々と打ち合わせを兼ねながら準備を進める
わけですが、その共同作業を通じてコンサート開催のノウハウを自治
体に持っていただくという意味でも、大変有意義な企画だと思います。

——全国各地で好評を得ているとのことですが、これまでの公演で、
特に印象に残るエピソードがあればお聞かせください。

岡村 高知の県立美術館ホールに行ったときにはびっくりしましたね。

能の舞台とコンサートの舞台が、回転して入れ替わるんです。あとい
う構造は初めて見ました。今だに印象に残っています。木のホールで、
本当に響きの良い素晴らしいホールでした。有田焼で有名な佐賀県西
有田町では、「世界・炎の博覧会」を記念して97年にオープンした「炎
の博覧会堂」の文化ホールで、開幕記念コンサートに出演したのですが、
そこがまた素晴らしい響きのホールでした。中世ヨーロッパのバロッ
ク様式とロココ様式の雰囲気に基づいた建築で、シャンデリアから
ドアノブまで、いたるところに有田焼が使われています。楽屋ではお
茶を入れてくださるのですが、その器はもちろん有田焼で、それも、出
てくるたびに違う作品なんです。そういう街のこだわりが感動しまし
た。伝統があるからこそ出来ることなんだろうね。次回は千葉県の
印西市文化ホールで開催予定です。先日打ち合わせを行ないましたが、
響きの良いホールのようなので、今から楽しみにしています。

じっくり取り組みたいエチュードの系譜

——今後はどのようなことを企画していきたいですか。

岡村 時間はかかると思いますが、エチュードの系譜のようなもの
を作りたいですね。フルートには、アルテス、アンデルセン、ペー
ム、フェルステナウ、ガリボルディ、ケーラー、マルセル・モイーズ、
タフネル、ゴーベルなど、多くの作曲家がたくさんエチュード
を残しています。私自身もまだ目に触れていないものがたくさんある
でしょう。これらを少しずつでも目を通して、良いものは積極的に採
り入れていきたいと考えています。どのエチュードの後に何を練習す
るべきか、どのようなタイプの人がどのような順序で練習するのがよ
り効果的か……と、研究材料はたくさんあります。

——そういうことは、皆さんが知りたいことでしょうか。

岡村 教える人にとっても、こういうものがあつたら便利なんじゃな
いでしょうか。作曲家によって傾向が違いますから、ひとつのものを
最初から順番にさらうだけでなく、別のものに取り組んでみる必要も
ありますね。私がこれまで勉強した中で言うと、ケーラーという人は
やはり良いエチュードを残していると思うのですが、例えば、ケーラ
ーの1巻と2巻の間に何か別のものを採り入れたり、ケーラーを勉強
しながら途中にアンデルセンを入れるというふうに、練習を進めるに
あつて良い影響を与えそうなものを途中で採り込むのは、有効な練習法
だと思います。

フルートのエチュードは、その一覧を見ただけでも相当な量
で、これらの内容を丹念に追っていくのは、本当に大変なことです。
それぞれの作曲家が様々な目的を持って書いてあるわけですから、そ
れらを理解するためには、自分で練習しなければいけません。そうす
ることによって身に付くものも大きくなると思います。

——集大成を楽しみにしております。ありがとうございました。

Concert Information

東京バロックアンサンブル演奏会
6/24日(土) 14:00開演
印西市文化ホール(千葉県)
出演:岡村考二(Fl)、石橋敦一(Ob)、
藤沢俊樹(Vc)、大原裕子(Cemb)
曲目:W.F.バッハ/トリオ・ソナタ へ長
調 テレマン/『忠実な音楽の師』よりフ
ルート・ソナタ へ短調 J.C.F.バッハ/
トリオ・ソナタ へ長調 他
問合せ:印西市文化ホール 0476-42-6811



岡村考二 Koji Okamura

1974年3月国立音楽大学器楽科フルート専攻卒業。同年6月、東京
バロックアンサンブル結成。1976年、ロサンゼルス日本交響楽団
国際音楽コンクール入賞。現在、東京バロックアンサンブル代表を
務め、独奏、室内楽者として活躍。毎年、横浜・フィリアホールで
行なっているクリスマスコンサートは各方面で好評。また、フル
ートレッスン小曲集、フルート名曲ライブラリー、ケーラー・フル
ート独奏本など、出版物も多数。長年の指導経験をいかし、プロ、ア
マチュアを問わず数多くの生徒を育て、多数のコンクール入賞者も
輩出している。竹本博、宮本明彦、ペーター・ルーカス・クラフ
の各氏に師事。文京学院大学・短期大学生涯学習センター講師。
ホームページ http://homepage3.nifty.com/koji_okamura/